

2月22日 1997年 スコットランドのロスリン研究所により、世界初のクローン羊「ドリー」の誕生を発表しました。

クローンは、そもそも「挿し木」を意味する言葉だそうです。つまり無性生殖によって増えること。植物ならば匍匐系や種芋によって増えるものを言います。動物でも一卵性双生児はクローンといえるのだとか……。

ところが、このドリーは未受精卵から核を取り除き、別の固体の乳腺細胞を挿入し電気刺激で細胞融合させた後、代理母の子宮に移植して生まれたもので、世界中に衝撃を与えました。

おっちゃんも、このニュースを聞いたときには、恐ろしいことだと思いました。

再生医療は山中教授のノーベル賞受賞などもあって、今注目の分野ですが、クローン技術を人に施すことがあったら、どんなことになるのでしょうか？安全性や倫理問題などにより今は、多くの国で規制されていますが、これからの世の中、人々がどのように考えていくのか、分からないと思うのですが……。

2月23日 1455年グーテンベルクが聖書の印刷を始めました。

世界三大発明といえば、火薬、羅針盤、印刷技術といわれ、世界史でも習った気がします。そのときにグーテンベルクの42行聖書も出てきました。

グーテンベルクは金属の加工職人でしたが、その技術で金属活字を作成したり、印刷機械を開発したりして自ら印刷業・印刷物出版業を始めた人です。それがルネッサンス時代のヨーロッパに大いに貢献したといわれています。

聖書の印刷は初め羊皮紙に45部印刷されたといわれています。そのうち現存するものは完全なものが4部と不完全なものが8部の合計12部。また紙に印刷したものもあって、それは完全なものが17部、不完全なものが19部現存しているそうです。日本でも1987年に丸善が購入したものを慶應義塾大学が保存しています。

ドイツのマインツにはグーテンベルク博物館があって、グーテンベルク聖書、16世紀から現代までの初期刊本のコレクション等のほか、印刷の実演も見られるそうです。

2月24日 1901年奥村五百子らが戦歿兵士遺族救護活動の為に「愛国婦人会」を創立しました。

奥村五百子（おくむらいおこ）は、歴史の教科書には出てこなかったと思います。だから、誰？その人と思う人も多いはず。

私は、子供の頃に読んだ偉人集の中に出てきた人で、「いおこ」という、ちょっと変わった響きの名前を印象深く覚えていました。でも、一体何をした人で、どんな偉業をなしたのか、さっぱり覚えていなかったのです。覚えているのは、長い竹箒を持って、いたずらした男の子に向かって仁王立ちした、子供時代の五百子の挿絵だけ……

今日が五百子に関係する日ということで、改めて調べてみれば、正義感が強く勉学にも秀でて男に負けない活躍

をした人のようです。ん～～、新島八重さんと同じだ！そして同い年じゃないですか～！！

生まれたのは唐津藩、お寺の娘でしたが、父の影響で尊王攘夷運動に参加し男装で長州藩に密使を務めたこともあったそうです。当時の世相と女性の地位などを考え合わせれば、この旅がどれほど危険か、勇気のある行動だったか分かります。家老に面会し密書を渡すという大役を見事に果たしています。

明治になってからは、朝鮮半島に渡り、朝鮮人の生活を向上させるには農業やその他の技術を進めなければならないと考え、学校を創設しています。幼児教育の必要性も唱え幼稚園も作っています。

愛国婦人会というのは、戦争に出兵した兵士の留守家庭や、戦争未亡人とその子供たちの生活を保護する目的で設立されました。今ならさしずめ NPO のような組織かもしれません。当時してみれば、非常に先駆的な事業のように思われます。

さて、偉人集に、なぜ奥村五百子が採集されたのか・・・「女のくせに」とか「女だから」というのではなく、時代を変えていくぐらいの勢いを持って勉強しなさいというメッセージだったのでしょうか？

本の編集者が誰だったのか知るすべもありませんが、その人の願いはかなったと言えるかもしれませんね。もう 50 年近く昔の本の話です。

2 月 25 日 1862 年 ヘレン・バンナーマンが生まれました。

ちびくろさんぼの作者として知られるバンナーマンは、イギリス陸軍の軍医だった夫に同行し、インド滞在中に自分の娘たちのために「ちびくろさんぼのおはなし」を書きました。

そもそも、彼女の描いたイラストやお話には差別的要素よりも子供の賢さや発想のユニークさを称えた内容でした。しかし「サンボ」の名前がアフリカ黒人の蔑称であるなどと言われ、各国で絶版処分になってしまいました。

日本では 1953 年に岩波書店から出版されたのを始め、多くの出版社から発行された人気の絵本でしたが、1988 年突然に、すべての「ちびくろさんぼ」が絶版になってしまいました。

その時に、カルピスの商標やダッコちゃんなども消えていきました。

今は、また数社から復刻されています。黒人差別問題と大騒ぎになった時期とは違い、復刻はマスコミも静観したようです。

「ちびくろさんぼ」を黒人差別と言ったら、黒人を主人公にしたお話なんて、描けないんじゃないでしょうか？

トラがホットケーキになるなんて、何度読んでも楽しくて、夢がある話でしたね～

バンナーマンは、ほかにも「ちびくろみんご」「ちびくろきーば」「ちびくろかーしゃ」など、ちびくろシリーズとも言えるお話を書いています。バンナーマンから見れば、インドの子供たちにイギリスの子供とは違ったかわ

いらしさを感じたのでしょうかね。

2月26日 1913年本田 實が生まれました。

鳥取県八頭町出身のアマチュア天文学者、本田實は生涯に彗星12個、新星11個を発見しました。

10歳の頃に星空に興味を持ち、お小遣いで望遠鏡を買いました。17歳の時には32倍の屈折望遠鏡を自作して天体観測をしていました。そして彗星を発見することを心に決めたそうです。

1940年には初となる「岡林・本田彗星」を発見し、翌年から全国初の民間天文台であるく倉敷天文台で観測を始めました。戦争中は出征先でも、夜空を眺め星の観測をしたそうです。

1981年には、賀陽町に自費で観測所を建設し星尋山荘（せいじんさんそう）と名づけ、観測に尽力しました。1990年亡くなると同時に倉敷名誉市民に選ばれました。

顔を見れば、素朴な田舎のおじいさんという感じなのに、星空を愛し、横笛を奏で、詩を歌い、陶芸を嗜むという風流人・・・世界に比類なく、新星、彗星を発見した本田さんは、宇宙を汚す核兵器やSDIに反対した平和を愛する人でもありました。

星に守られて この庵にいく年
植えずして野の花は四季をかざり
育てずして虫は昼夜奏でる
朝を東の窓に迎へ
夕月の西の窓にかかるを送る
夜半中天の星を仰ぎ
一笛をしめらせて
想いをふるさとおく

これは、星尋山荘前にある記念碑に彫られた本田さんの詩です。
今年、生誕100年になります。

2月27日 1932年エリザベス・テイラーが生まれました。

ロンドンに生まれ、7歳のときに第二次世界大戦の戦禍を避けるために、家族とともにアメリカに移住しました。12歳の時に映画デビューし、その後「名犬ラッシー家路」「ジェーン・エア」など二出演し、少女スターとして有名になりました。

その後、美人女優として数々の映画に出演し、主演女優賞も多数受賞しています。また恋多き女優としても名を馳せていて、8度の結婚と7回の離婚を経験しているという忙しさ(?)です。

出演した映画の話は、さておき彼女の女優たるエピソードをいくつか・・・

数々の名声をほしいままにした彼女の名言が

「あなたは何でも手にしている」と言われたら、
私はこう答えるようにしているの。

「明日を手にしたことなんて一度もないわ」ってね。
すごい余裕・・・

また、リズは遅刻の常習犯でもあったそうです。生前から「自分の葬儀に 15 分遅刻する」と冗談を言っていたようですが、近親者だけで行った葬儀の後、テイラーさんの広報担当は次のような声明を発表しました。

「葬儀は午後 2 時からの予定でしたが、遅れて始めるようにというミス・テイラーの依頼がありました。ミス・テイラーは次のような指示を遺されていました。

告別式は公式に発表した時刻よりも少なくとも 15 分遅く始めること、その際『彼女は自分の葬儀にさえ遅刻したかった』と発表すること」

やっぱり、世界的に有名な大女優は、違いますね～～～

映画を見たことがなくても、エリザベス・テイラーの名前は、知っていますから。

2 月 28 日 紀元前 202 年劉邦が皇帝に即位し、4 世紀に及ぶ漢王朝の支配が始まりました。

とは言うものの、当時の暦は今の暦とは違うだろうし、ここに紹介するには根拠に乏しい気がするけれども、劉邦と項羽は中国史の中でも有名だから、つい書いてしまいました。

5 年にわたる楚漢戦争は項羽の死によって終結し、劉邦はその後 400 年続く漢王朝を開きます。項羽と劉邦に関して名場面はたくさんありますが、やはり楚漢戦争のクライマックスは「四面楚歌」と「垓下の歌」ではないでしょうか。

高校時代、漢文の先生が「虞や虞や汝を如何せん」と、感情移入たっぷりに読んでいたのを鮮明に思い出しました！項羽が敗戦を覚悟して、傍らの虞美人の行く末を心配するシーンです。

漢文で習った中国史は「史記」にしても「十八史略」にしても「三国志演義」にしても、ドラマチックに脚色してあるのでしょうか。なんとも感動的です。高校生の時には、そういう人生の機微には疎かったのですが・・・

もう一度勉強し直せたら、さぞかし面白いのではないかと思えるのですね。漢文の読み下し文のリズムのよさもいいですね。